

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 24 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520049

研究課題名（和文） 漢籍抄物を中心とした中世末期  
～近世初期の学術的展開に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental study on the academic development from the late medieval times to the early modern period focusing on "Sho-mono"

研究代表者

町 泉寿郎 (MACHI SENJURO)

二松学舎大学・文学部・准教授

研究者番号：40301733

研究成果の概要（和文）：本研究は「抄物」を室町期俗語資料としてではなく、その本来の漢籍注釈書ととらえ、具体的には日本中世漢学を集大成した清原宣賢の学術に向き合うべく、その「四書」を中心とした「漢籍抄」を取り上げ、特に宣賢自筆の手控え、またはその忠実な写本を主たる研究対象とした。我々は日本学研究者と中国学研究者が参加する会読研究会を実施し、抄物本文の正確な翻刻と、訓点に準拠し字音・字訓・音便等の日本語と中国語に配慮した正確な訓読文に留意した。その四書解釈の内容については元明期注釈書（『四書輯釈』『四書大全』等）、一条兼良や清原家点本、および文之点・羅山点等の後続文献まで視野に入れて照合し、宣賢を起点として南北朝～近世初期の学術的展開を追求した。会読成果の第1冊として、平成23年10月に汲古書院から『大学聴塵』をその翻印・訓読・脚注、および『四書童子訓』との対照表・『四書童子訓』翻印によって構成し、フルカラーの影印を添えて刊行した。併せて「清原宣賢漢籍抄翻印叢刊」第I期・第II期を企画した。次いで『中庸抄』の会読を進めるとともに、第I期分の『三略秘抄』『曲礼抄』『長恨歌並琵琶行秘抄』『論語聴塵』『蒙求秘抄』の整理を進め、第II期分（『左傳聴塵』『漢書抄』『易学啓蒙抄』『六韜秘抄』）のための準備を進めた。

研究成果の概要（英文）：

In this research, "Sho-mono 抄物" is studied not as colloquial data during Muromachi period, but as an original edition of Chinese books. Concretely, to research the study done by Kiyohara Nobukata (清原宣賢 1475-1550) who compiled Chinese classical studies[漢学] in the Japanese medieval era, this research includes "Kanseki-sho 漢籍抄" focusing on the four Chinese classics[四書] particularly investigating on handwritten notes by Nobukata and his faithful manuscripts. We carried out meeting for the study in which Japanology researchers and Sinology researchers participated, and payed attention to reprint "Sho-mono 抄物" accurately and Japanese reading sentence[訓読文] correctly considering Japanese and Chinese using sound reading of Kanji[字音 ji-on], Japanese reading of Kanji[字訓 ji-kun] and Euphonical change[音便] based on the guiding marks for rendering Chinese into Japanese[訓点 kun-ten]. The contents of interpreting the four Chinese classics[四書] are collated with annotated editions in Yuan and Ming Dynasty ("四書輯釈" "四書大全" etc), Ichijo Kaneyoshi(一条兼良 1402-1481) and the scripture with Kiyohara's guiding marks[清原家点本], and the scripture with Bunshi's guiding marks[文之点]・the scripture with Razan's guiding marks[羅山点] etc which are from the following period. The deployment of research from Northern and Southern Dynasties to the early modern period starting from Nobukata 宣賢 is pursued. The first fruits of the reading-and-discussion meetings are published as "Daigaku-chozin 大学聴塵" from Kyuko Publishing "汲古書院" in October, 2011, consisting of its transliteration[翻印]・the Japanese reading[訓読]・footnote[脚注], a calculating table to "Shisho-dojikun 四書童子訓", and reprints with fully colored[影

印]. Additionally "清原宣賢漢籍抄翻印叢刊" is planned in first and second terms. Subsequently, "中庸抄" is read further, "三略秘抄" "曲礼抄", "長恨歌並琵琶行秘抄", "論語聽塵", and "蒙求秘抄" are sorted out into the first term, and "左傳聽塵", "漢書抄", "易学啓蒙抄", "六韜秘抄" are in preparation for the second term.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：中国哲学

キーワード：日本漢学、漢籍注釈、四書学、抄物、清原宣賢、一条兼良、新註学、室町時代

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者・町と、研究分担者・大島は、二松学舎大学 21 世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」(平成 16 年度～20 年度)の研究分担者としてプログラムに参加し、近世近代日本漢文班に属して共同研究を積み重ねた。その最初は、稿本として遺されていた故倉石武四郎教授(1897～1975)の昭和 21 年、東京帝国大学における講義ノート『本邦における支那学の発達』(汲古書院、2007 刊)の整理・補注作業であった。本講義ノートは、端的に言って、日本における中国の学術文化研究の通史(日本漢学史)と呼びうる内容であり、従来の日本漢文学史とは大きく異なるもので、今後の日本学研究の一支柱となる可能性を秘めた研究領域として理解できた。

講義ノートの整理をとおして、日本漢学史の基本的な考え方を共有した両者は、次に具体的な問題を検討する場として、「四書註釈書研究会」を開始し、その手始めに中世末期の博士家を代表する清原宣賢(1475～1550)の抄物『大学聽塵』を取り上げた。つまり、元・明期に伝来した新註学(具体的には「四

書学)を、旧来の古注の墨守に終始したとされる博士家の儒者等がどのように取り扱っているかをとおして、広く言えば中世から近世にかけての学術の展開を捉えようとしたものである。

### 2. 研究の目的

本研究が取り扱う「抄物」は、主に中世俗語資料として日本語学の研究対象とされ数多くの研究蓄積があるものの、その内容の検討については、昭和初期の足利衍述や大江文城による研究以降は、十分に行われてきていない。しかしながら、抄物は「室町時代中期から江戸時代初期の間に、京都五山の禅僧や博士家の学者などが、漢籍・仏書や漢文体の国書を註解講義した際に、受講者が筆記した聞書、ならびに講義口調文体で書いた注釈書」(『訓点語辞典』)であって、第一義的には漢籍等に対する注釈書の性格をもつ。したがって、抄物を単に言語資料としてだけではなく、本来の注釈書として研究対象化し、それによって中世末期～近世初期の学術のあり方を追求することを本研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

我々は、抄物を「漢籍注釈書」として据えた本研究の推進に不可欠な日本学研究者と中国学研究者の共同研究体制のもとで、「清原宣賢漢籍抄」の会読研究会を継続実施した。会読研究会を、平成22年度は12回、23年度は17回、24年度は30回にわたって実施した。第一に抄物本文の正確な翻刻に留意し、原資料に施された訓点に準拠し字音・字訓・音便等の日本語・中国語の問題に配慮した正確な訓読文を検討し、その四書解釈の内容については元明期四書注釈書、一条兼良や清原家点本、および文之点・羅山点等の後続文献まで視野に入れて照合検討した。

本研究課題のような文献研究に着手するに当たっては、事前の十分な書誌調査によって、良質な文献資料を選定することが、極めて重要である。したがって、研究会と併行して関連資料の所在調査とその収集に努めた。実地調査、または複写依頼により、資料収集をはかった所蔵機関は以下のとおりである。足利学校遺蹟図書館・石川県立図書館・石川県立泉丘高等学校・岩国徴古館・愛媛大学図書館・大阪大学懐徳堂文庫・大阪府立中之島図書館・加賀市立図書館・香川大学神原文庫・鹿児島大学玉里文庫・金沢大学図書館・慶応義塾大学斯道文庫・慶応義塾大学図書館・建仁寺両足院・国立公文書館・実践女子大学図書館・島原図書館松平文庫・市立米沢図書館・神宮文庫・尊経閣文庫・大東急記念文庫・天理大学図書館・東洋文庫・蓬左文庫・無窮会図書館・陽明文庫・米沢市立図書館等。

#### 4. 研究成果

資料調査の結果、宣賢の抄物のみならず、『大学童子訓』の未調査の伝本、羅山点の最早期刊本『四書集注』、林羅山・那波活所書入『四書大全』、文之玄昌書入『四書大全』、林羅山『論語諺解』など数多くの重要資料を

調査収集し、見るべき成果があった。

会読の成果の第1冊として、平成23年10月に汲古書院から、『大学聴塵』をその翻印・訓読・脚注および『四書童子訓』との対照表・『四書童子訓』翻印によって構成し、全ページカラーの影印を添えて刊行した。『大学聴塵』は、鮮明なカラー影印、正確な翻印、適切な脚注に心がけた。本書は、清原宣賢の「四書抄」に関する最も基礎的な資料として、長く学界で活用されるはずである。

平成23年度下半期からは、『中庸抄』の会読研究会に重点を移した。東洋文庫本（釈梵舜写）と陽明文庫本を対照し、また京大図書館・天理大学図書館の『中庸章句』を併照しつつ進めている。

更にこの刊行を契機に、清原宣賢の漢籍受容の全幅を検証すべく、『清原宣賢漢籍抄翻印叢刊』の刊行計画を具体化し、資料調査と収集を行い、その整理作業に着手した。従来は日本語資料として活用されてきた中世漢籍抄の、漢籍注釈書としての意義をあらためて問うものとして、国内外の日本・中国の古典研究者の注意を喚起している。その書目と担当予定者は下記の通りである。

#### 第I期

- 曲礼抄 卷1 曲礼 1冊（戸川芳郎）
- 中庸抄 1巻1冊（大島晃ほか）
- 論語聴塵 10巻5冊（影山輝国・橋本秀美・水上雅晴）
- 三略秘抄 3巻1冊（大島晃・町泉寿郎）
- 蒙求聴塵 3巻3冊（佐藤進・長尾直茂・河野貴美子）

- 長恨歌並琵琶行秘抄 1冊（河野貴美子）

#### 第II期

- 易学啓蒙抄 2巻2冊（戸川芳郎）
- 左伝聴塵・春秋左伝抄 16冊（岩本憲司）
- 漢書抄 6冊（長尾直茂）
- 六韜秘抄 6巻2冊（大島晃・町泉寿郎）

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 大島晃、ハーバード大学所蔵朝鮮版『性理字義』－その林羅山旧蔵本説をめぐって、漢文学 解釈與研究、12、pp1－32、2011
- ② 大島晃、浅見綱齋と日本儒学史研究、斯文、121、pp79－92、2011
- ③ 町泉寿郎、柿村重松の事績とその日本漢文学研究、日本思想文化研究、12、pp12－56、2012

[学会発表] (計 13 件)

- ① 町泉寿郎、室町・江戸期注釈書にみる古典伝授のかたち－医書にみる学問伝授と古典の形成－、欧州日本学協会 EAJS 第 13 回大会、2011/8/26、エストニア・タリン大学
- ② 町泉寿郎、清原宣賢“漢籍抄”及其整理公刊、(北京大学中国古文献研究中心主催) 中日《論語》文献研究学術研討会、2011/12/17、北京・北京大学
- ③ 町泉寿郎、近代以前の訓読－『論語』を読む－、ドナルドキーンセンター主催漢文ワークショップ、2012/2/24、ニューヨーク・コロンビア大学

[図書] (計 1 件)

- ① 大島晃、久米晋平、河野貴美子、佐藤進、清水信子、白藤禮幸、瀧康秀、戸川芳郎、鍋島亜朱華、町泉寿郎、清原宣賢漢籍抄 翻印叢刊 1 大学聴塵
- 1) 翻印之部 292 2) 影印之部 156

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

町泉寿郎 (MACHI SENJURO)  
二松学舎大学・文学部・准教授  
研究者番号：40301733

(2) 研究分担者

大島晃 (OSHIMAAKIRA)  
東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授  
研究者番号：25370050

(3) 連携研究者

戸川芳郎 (TOGAWA YOSHIO)  
東京大学/二松学舎大学・名誉教授  
研究者番号：08401001

白藤礼幸 (SHIRAFUJI NORIYUKI)  
二松学舎大学・名誉教授  
研究者番号：10007461

佐藤進 (SATO SUSUMU)

北海道文教大学・外国語学部国際言語学科・教授

研究者番号：40109096

長尾直茂 (NAGAO NAOSHIGE)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：30323182

河野貴美子 (KONO KIMIKO)

早稲田大学・文学学術院・准教授  
研究者番号：20386569